

# 質の高い大学教育推進プログラム状況調査 現地調査報告書

## 特に優れており波及効果が見込まれる取組

学 校 名	岐阜薬科大学	取組学部等	薬学部薬科学科
取組名称	創薬学士力養成プログラム		
申請区分	教育課程の工夫改善を主とする取組		
<p><b>●取組の特徴</b></p> <p>日本の薬学教育は、平成18年度入学生から、6年制と4年制に分かれ、新6年制薬学教育は薬剤師養成、新4年制薬学教育は創薬研究者あるいは技術者を育てる事が目的である。</p> <p>本取組の特徴は、旧来の4年制薬学教育と差別化を図り、新4年制薬学部（科）に入学した学生を、「さがす」「つくる」「とどける」の創薬三要素を統合的に理解・実践できる人材に育成することである。</p> <p>また、テレビ会議システムを活用し、企業などの社会との接点を広げ、実践的なコミュニケーション能力を醸成すること、コンピューターベース創薬ラーニングシステムの活用、複数研究室で実施するインターラボシステムなどにより、創薬三要素に関する先端研究を体験することを特色としている。</p> <p><b>●取組の成果</b></p> <p>創薬三要素を3つの大講座に位置づけ、この三大講座間での分野横断型連携教育が行われている。この分野横断型連携科目と「エコロジー・ヒューマニズム科目」をバランスよく配置して、統合型創薬教育プログラムを実施することで、学生は統合的な観点から創薬を捉えることができるようになってきている。</p> <p>本取組に参加した学生の「創薬」に対する意識が着実に高まっており、修士課程への進学率が大幅に向上している。</p> <p>また、低学年次における「アーリーエクスポージャー」により、社会への貢献を実感させ、さらに3年次の「製剤工場見学」が社会との接点として、学生に大きなインパクトを与え、大きな成果を上げている。</p> <p><b>●大学等の教育への波及効果</b></p> <p>新4年制薬学教育の目的であり、我が国に不足する創薬学士力を身につける教育は極めて重要である。本取組は、創薬学士力を修得するために、順次性のある組織的なプログラムが構築されていることから、新4年制薬学部（科）をもつ他大学への波及が期待される。</p> <p>テレビ会議システムを活用した企業訪問による実践的コミュニケーショントレーニング、学部生を対象としたコンピューターベース創薬ラーニングシステムの活用、複数研究室で実施するインターラボシステムにより学生の視野を広げる取組など、他大学の参考となることが期待される。</p> <p><b>●その他特筆すべき事項</b></p> <p>本取組の有効性の検証を行い、プログラムのさらなる改善および発展が期待される。</p>			